

「墨田区都市計画マスタープラン」改定区民ワークショップ

平成19年度

第2回 ワークショップの概要

■第2回ワークショップの概要

◎テーマ：テーマ／分野別の検討①

◎日時：2007年5月25日 19:00～21:00

◎会場：墨田区役所 13階 131会議室

第1回ワークショップでは、各メンバーがそれぞれ気になる場所やものを紹介しましたが、今回はそこからグループ毎に検討するテーマを設定しました。「防災」「定住」「環境」「景観」「産業」という“分野”をにらみながら似たようなテーマをまとめていくグループや、関心の高いテーマから検討を始め、そこから話を広げていくグループなど色々な進め方がありました。

第2回ワークショップも、総勢33名と多くの方が集まりました。

■当日の流れは・・・



まず前回の検討内容の振り返りを行います



その後は、写真をもとに検討テーマをどんどんとあげていきました



発表は、関心の高い内容について突っ込んだ提案を紹介したグループや、検討テーマの共通項やつながりを意識してまとめた結果を紹介したグループなどメンバーの個性が出たものになりました

■次回の予定は・・・

第3回目以降は、今回確認した検討テーマに沿って、テーマ別の検討を続けます。今後はあまり意見の出ない分野の課題についても意識して検討してみることにようになります。

(注) ワークショップは事前に参加登録をいただいた方にお集まりいただき、これからのまちづくりと20年後の墨田区の将来像について検討しています。参加登録をしていないけれどもワークショップの内容や検討中の案に対するご意見・ご感想・お問い合わせなどがあるという方は toshikeikaku@city.sumida.lg.jp (墨田区都市計画課) までご連絡ください。

■Aグループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎Aグループ：荒川沿いの墨田・八広地区に堤通・東向島地区の一部を加えた、概ね明治通り以北の区の北端部に位置するエリア

削除：おおむね



まず地域に多く見られる路地のまちづくりについて、ただ道を広げるだけでなく、他にも防災性を高める有効な方法があるのではないかと、といった視点から検討を行いました。



～路地のまちづくり～

- “路地だから危ない”Qではない
 - 危険な建物の不燃化（→不燃木材、在来工法の見直し→すみだモデル）
 - 路地に埋設管／消火栓を
- すみだモデル
 - 建物のデザインの工夫
 - 幹や快適性を大事に
 - ブロック塀を安全に
- その他
 - 自動車の入れる道路／入れない道路を色分け
 - マンション等は圧迫感／影の連鎖がないように
 - 路地に名前をつける など

■Bグループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎Bグループ：東向島・向島・京島といった密集市街地のまちづくりと曳舟・押上・業平橋といった大規模開発が並んだ区の中央部に位置するエリア



新タワー予定地と曳舟の再開発エリアという大事な2つのポイントからその周りに人を呼び込むまちづくり／道づくりについて、地図を使って具体的な通りを取り上げながら、主に景観上・環境上の視点から検討を行いました。



～歴史ある道を活かす歩いて楽しいまちづくり～

- 江戸、明治、大正などの歴史や趣を感じさせる面白い道に（例：江戸小径）
 - 電信柱をなくして眺めの良い道に
 - 緑や石畳を使った整備を行う
 - 自動車の進入を規制する
 - 住民の意見を聞いて道に名前をつける
 - 道路の付け替えなどを行って曳舟川を再生する

～拠点を活かす周辺部のまちづくり～

- 新しくつくるのではなく今あるものを活用する
 - お寺や神社、公園、百花園などから緑化を広める
 - 隅田川沿いをもっと水に親しめる公園に
 - お寺や神社（七福神めぐり）とあわせて文人の記念館等をつくり、まちの歴史的価値を高める

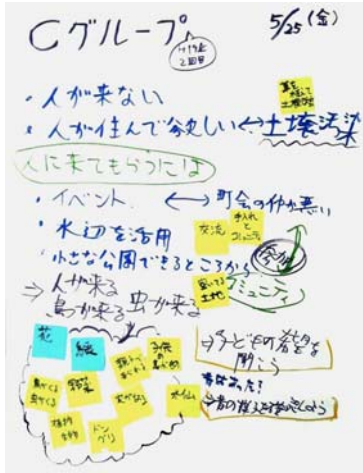
削除：と

■Cグループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎Cグループ：小村井、東あずまの2駅を中心に広がる立花・文花地区に旧中川で結ばれた東墨田地区を加えた、区の東端部に位置するエリア



第1回で確認した地域の良い面を伸ばしていくために、平成18年度から取り上げてきた“人を集めるためのアイデア”について検討しました。環境や景観という切り口から新しいアイデアやキーワードが出てきました。



- ～人に来てもらうには～
- 水辺や空いている土地を活用
- 小さな公園に手を入れる
- ⇒草木の手入れを通じた地域の交流促進
- ⇒“人が来る鳥が来る虫が来る”公園整備→花や実のなるものを植える／親子のための環境学習
- ～どこから人を呼べばよいか～
- タワーに来る人／平井からプール等に来る人／区の南側の人達を呼ぶ
- ⇒コミュニティバス→人が通るコースをきれいに→建物の色を揃える
- ⇒旧木下川小学校をユースホステルに
- ⇒対岸（平井側）に向けて景観でアピールする
- ⇒旧中川に桜橋のような橋を架ける

削除：した

■D1グループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎D1グループ：両国駅周辺から、両国・本所・吾妻橋にわたる、概ね北を北十間川、東を大横川親水公園までを範囲とするエリア



住みやすいまち（＝定住面）を最初のテーマに、自分の周りの住みやすい／住みづらいところを検討しました。基盤の目状の道路を評価する声のほか、特に急増するワンルームマンションに関する意見が多く出ました。



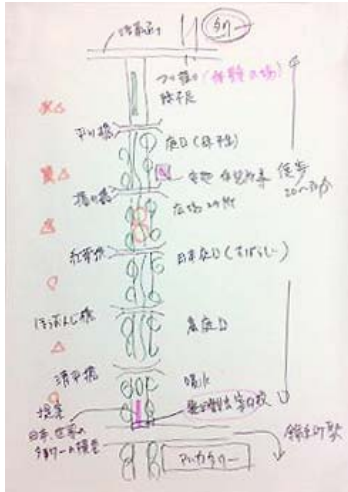
- ～住みやすい点：基盤の目の道路～
- 道路が基盤の目状に整備され朝、夜が静か
- 坂道がなく自転車の利用がとても多い
- ～緊急の課題：ワンルームマンション～
- 工場やお店の閉鎖などが背景
- コミュニティの弱体化や管理上の問題がある
- 住む人が増えるのは良いこと
- ⇒地元からの情報発信→町会の働きかけ／出会いの場をつくるまちづくり
- ⇒定住を促すような住宅→助成金などの行政の施策／子供を育てられる環境づくり／ペット可
- ⇒マンションの高度制限

■D2グループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎D2グループ：錦糸町駅周辺から、錦糸・業平にわたる、概ね北を北十間川、西を大横川親水公園までを範囲とするエリア



新タワーの建設にあわせて緊急でやらなければいけないことは何か、平成18年度の検討内容を分野別に見てみるとどのようなテーマが見えてくるのか、という2点について、メンバーの持参した資料（左下図）などをもとに検討を行いました。



～新タワーの建設に向けて～
 ○押上と錦糸町の繋がりが⇒大横川親水公園の活用
 →遠くからタワーを眺めながら歩けるルートへ
 →区内でも緑の豊富な環境を活かした景観
 →公園に顔を向けてマンションの1階に店舗を
 →橋の間の区間ごとにテーマを設けて整備をして
 いったらどうか など

～分野別の視点：定住～
 ○基盤の目の道路の活かし方
 →徒歩ルートがないので歩道を広く／緑化を
 →自転車利用者が多いので自転車専用道を
 ○住宅の建て方
 →3階建てが建てられるようになったおかげで建て替えがしやすくなっている

■D3グループで話し合われた内容は・・・（意見の一部をご紹介します）

◎D3グループ：菊川・立川・緑を中心とする、概ねJR線路または縦川／首都高速道路以南の区の南端部に位置するエリア



縦川がまちづくりのきっかけになるのではないかと考え、その活用方法について特に検討を行いました。他にも、北斎通りや馬車通りなどに関する意見、定住化を促すためのお祭りや町会単位の活動が重要と行った意見もありました。



～検討の背景～
 ○ワンルームマンションが増え、自分たちが「行こう」と思うような所ではなくなってしまった
 ○あるものを活かす／運河をもっとPR
 →北斎通りや馬車通りの活用
 →河川の活用

～河川の活用方法～
 ○縦川の活かし方
 →地元にも愛される景観づくり
 →大横川との交点から広げていく
 →区も管理だけでなく積極的に関わって欲しい
 →防災にも活かせるのではないかと